



リモコンで動くよ！



2

リモコン式 航空機けん引機

伊丹空港で今夏導入。エンブラエルE170・E190型機の出発便プッシュバックに使用されるのは世界初。運転席のない特徴的なデザイン。



▶TOWING TRACTOR

4



バイオディーゼルで動く トローイングトラクター

伊丹・成田・熊本空港などで使用中のB100燃料は1L当たり約2.62kgのCO₂排出量削減効果(軽油比)。



▶ELECTRIC VEHICLE

3



電気自動車(EV)

エネルギー効率は燃料エネルギー車の2〜4倍とも。走行時CO₂以外の排ガスもゼロと、大気汚染防止にも期待がかかる。

▼JALフランクフルト支店



R REPORT

JALが取り組む新しい空への挑戦を皆さまにお伝えします

Embrace our
Challenge JAL

次世代エネルギーではたらくクルマたち 空も地上も脱炭素へ！

▼HYDROGEN PUSHBACK TRACTOR

1



JALグランドハンドリング企画部
坂本高昭

「今回の成果を東京都やパートナーと共有し、今後の水素ビジネスの発展につなげます」

日本初！ 水素で働く航空機けん引車

今年8月から羽田空港で始動。お披露目イベントには小池百合子東京都知事をはじめ、共同取り組みパートナーの皆さまとJAL社長の鳥取三津子も参加。12月までの試験運用期間中にCO₂を約2.6t削減予定。



最新技術でCO₂を削減

シートポケットの「安全のしおり」をご覧いただくと、ご搭乗の機種がわかります。ボーイング787型機や、エアバスA350型機などであれば、従来よりCO₂排出量が少ない機材。JALグループではこうした省燃費機材の導入や、持続可能な航空燃料(SAF)への置き換え、日々の運航の工夫などで、2050年までにCO₂排出量実質ゼロを目指しています。

環境負荷低減への取り組みは、空だけでなく地上でも。今回はCO₂排出量削減に貢献する、JALグループの4種の「はたらくクルマ」をご紹介します。

まずは航空機けん引車。飛行機が発動する際、自走できる位置まで機体を動かす「プッシュバック」作業を行う車両です。軽油で動くものが多いですが、JALは今年8月、JALUX、JALEアタック、タジマモーターコーポレーションなどのパートナー企業、そして東京都と、日本で初めて、水素で働く航空機けん引車の試験運用を開始しました。JALグループでは他にも、水素で動く飛行機やエンジンを開発するスタートアップ企業などと、水素に

関する技術調査を進めています。

次はちよつと珍しい、リモコン式の航空機けん引機です。伊丹空港では今年7月から、世界で初めてエンブラエル機の出発便プッシュバック作業に導入しました。電動化による環境負荷低減に加え、リモコン化による地上作業の省力化、作業者の育成促進なども期待されています。

同じく電気で動く乗用車(EV)の活用も進めています。JALのフランクフルト支店では、駐機場とオフィスを行き来する全ての社用車を、今秋中にEVに換える計画です。

最後はトローイングトラクター。皆さまからお預かりした手荷物や貨物をけん引します。伊丹空港では今年5月からこの車にバイオディーゼル燃料濃度100%の「B100燃料」を使い始めました。廃食油などを原料とするバイオディーゼル燃料は、そのライフサイクル全体でCO₂排出量を大きく削減できます。この取り組みは9月時点で19の空港まで広がり、今後も空港ごとの立地や環境にあわせて拡大していく予定です。

JALグループは世界各地で次世代エネルギーの活用を進め、持続可能な未来を目指しています。降機後はぜひ、次世代の「はたらくクルマ」にもご注目ください。

